



# わたしが認知症カフェに参加する理由

## あつたか熱田

NEWS  
〈第11号〉

名古屋市の認知症カフェの支援を始めたのは、平成27年度。熱田区には4か所の認知症カフェが誕生した（現在12か所）。その認知症カフェすべてを回り、安心して出かけられる場所を探した人がある。ささゆりカフェの田中繁太さん（37）。義母のために見つけた場所が、いつの間にか田中さんにとっても居心地のいい場所になった。

非常事態宣言を受けて、現在、熱田区内の多くの認知症カフェが開催を見合わせている。ささゆりカフェもその一つ。もう1年以上開催を中止している。そんなささゆりカフェの再開を心待ちにしているのが、ボランティアの田中さんだ。

平成27年、田中さんは認知症と診断された義母を、夫婦で暮らす自宅に呼び寄せ、同居を始めた。瑞穂区から熱田区に来て、近所に

### 義母のために、すべての認知症カフェを回った

知り合いがおらず、閉じこもって過ごす義母に外出の機会をもっとほしい”

”以前のようにはっきりと”  
”してほしい”と思い、安心して出かけられる場所を探し始めた。

【認知症サポーターとは】  
認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を、地域や職場で見守り、支える人です。

安心して出かけられる場所を探して

申請をし「要支援1」の認定を受けた。様々なタイプのデイサービスについて調べ、義母に勧めたが「行きたくない」という思いが強く、それを変えることはできなかつた。

そんなとき、熱田区役所で行われた認知症講演会に参加し、認知症カフェについて知った。

「義母が気に入るところがあるかもしれない」。田中さんは熱田区にあるすべてのカフェ（当時3か所）を見て回った。そして、自宅近くに4か所めのささゆりカフェがオープンすることを知り、妻と義母を誘った。



田中さん（奥の男性）が義母とともに参加したささゆりカフェ。和気あいあい、話がはずんだ。



ささゆりカフェは一軒家のリビングで行われるアットホームなカフェ。並べられた2つのテーブルを囲み、ちよっとした作り物をしながら、おしゃべりをする。部屋の中には、手動式のミシンや古い冷蔵庫など昔懐かしいものが並べられ、温かい雰囲気を持ちを和ませてくれる。

最初は少し緊張した面持ちだった義母の千代子さん。他の参加者と話すうちに、しだいに表情が柔らかくなっていった。デイサービスが話題に上り、他の参加者が「もつ

と行く回数を増やしたい」と話すと、「どんなことをしているの?」と話が盛り上がった。興味を持った千代子さんは「行ってみたいかしら」と、その場で体験利用することが決まった。

参加者の言葉が  
本人の心を動かした

あれから6年余り。今では週4日デイサービスを利用している。知り合いが増え、気の合う利用者やスタッフの話をしてくれることもある。認知症状は少しずつ進み「要介護2」。テレビのリモコンは、電源ボタンとチャンネル切り替えボタン以外は隠してある。本人



ができるだけ自由に過ごせるよう工夫し、自宅で暮らし続けたいと思っている。千代子さんがデイサービスを利用している間、田中さんは認知症カフェや男性クラブ（瑞穂区社会福祉協議会）に参加する。妻も自分の時間を過ごし、夕方デイサービスから帰ってきた千代子さんを温かく迎える。義母のために探した認知症カフェが、田中さんにとっても居心地のいい場所になっ

自分にとっても  
居心地のいい場所に

た。田中さんはこの6年の間に、認知症サポーターになり、認知症予防リーダーになり、ささゆりカフェの運営を手伝うボランティアになった。

一人ですべて行っても自然に馴染むことができる  
“ささゆりカフェ”の再開を心待ちにするファンは多い。

## ささゆりカフェ

船方学区 ☎659-1232

- ・実施日：毎月第3水曜 13時-15時
- ・場所：ケアプランささゆり  
(一番二丁目25-5)
- ・参加費 100円

※新型コロナウイルス感染防止のため、  
現在休止中、再開未定。

認知症の方が住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、仲間づくりや生きがい支援、介護する家族の負担軽減、認知症状の悪化予防、地域住民への啓発等を目的として、誰もが集まることができる居場所が『認知症カフェ』です。

熱田区いきいき支援センター（本センター） ☎ 671-3195 FAX 671-1155  
（分室） ☎ 682-2522 FAX 682-2505